

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の「認知症高齢者の住まい」である事業所として、共存共栄を旨に、また地域社会において認知症高齢者にご理解いただけるよう理念を持ち事業運営を行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「介護理念」は玄関に掲示し、毎朝の朝礼にて唱和し、共有・実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族や地域の方々には当事業所の介護理念のもと、対応・声かけを行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々とは、スタッフの出退勤時・入居者との散歩時を問わず気軽に立ち寄っていただけるよう声かけを行っている。向かいの方からは、当事業所から聞こえる入居者との歌声につられ、鼻歌を歌っているとお声をいただいたり、12月に飾るクリスマスのイルミネーションを毎年子供と楽しみにしているとお声をいただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会総会・地域の夏祭りには毎年参加し、地域の一員として地域の方々との交流を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティングにて地域への貢献について話し合い、自治会総会に於いて、ご案内している。認知症高齢者を自宅にて介護している家族より「接し方・家族としての考え方」について電話にてご相談を受けた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容については全職員とミーティングにて話し合い、またご家族様には郵送にてお送りしご意見を伺い、当事業所の考え方に照らしながら対応している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、当事業所の現況報告ののち各参加者から、ご意見・ご質問を受けている。ご家族・地域の自治会長より行政・消防(年に一度)に対しての質問も多く、グループホームの運営推進会議が枠を超えての情報共有の場となりえている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護申請のため市役所へ出向いた際には必ず担当者と情報を共有している。その他、市役所内で行う加盟団体の勉強会・交流会、市役所主催の勉強会・交流会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。市役所主催の交流会に於いては、事例発表・司会等させていただいた。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それぞれの勉強会・研修会には積極的に参加し、朝礼時・ミーティングにて発表し、全職員の知識の共有に努めている。また、必要な方には提言・助言を行い、現在ご利用者で成年後見制度を利用されている方もおられる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修会に積極的に参加し、朝礼・ミーティング時に発表し、知識の共有を行い、精神的虐待も含め完全防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を持ち合わせ十分な説明を行い、理解・納得をいただいている。また疑問をお持ちになった際には、随時お答えし、納得いただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見や不満は随時お聞きしている。また、ご家族様からもご本人の意見を伺い、指摘された事項については職員全員で考え対応している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては3ヶ月に1度のホーム便りにて、健康状態については随時、金銭管理については毎月々の利用料請求時に現金出納簿にて、職員の異動についてはホーム便りにて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ご利用者に担当職員を1人決めており、ご家族の面会時には、日頃の様子をお話し、ご家族が意見を申し出やすい環境づくりに努めている。玄関には「ご意見箱」を設置、国保連合会のポスターを掲示し、家族会にて意見・不満・苦情の窓口としての市役所・国保連合会の電話番号・FAX番号の案内を行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・ミーティング時に職員からの意見・提言を伺っており、1つの提言には職員全員で話し合い反映に活かしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	当事業所は、ご利用者・ご家族の希望でターミナル・お看取りまで行っているが、その中で、柔軟に勤務調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでは職員とご利用者の馴染みの関係は大前提である。異動はユニット毎で行い、出勤・退勤時には必ず他のユニットに挨拶に出向くようにしている。離職については、ご利用者のダメージを最小限にするよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては性別や年齢によって決定することはないが、やる気がある方なのか、どのような意思のもとで介護に携わろうとしているのか、応募者の健康状況によっては区別している。現職員については、個人の能力に応じ決定権を持ってもらい、当事業所を担う一員として責任ある行動を行えるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会・研修会に積極的に参加し、朝礼・ミーティング時に発表し意思の統一を図っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内に勉強会・研修会の案内・ポスターを貼りだし、朝礼・ミーティング時に案内し参加を勧め、事業所として交通費の支給・講習料の半額支給を行っており、職員各自の意識改革・技術の向上に努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>当事業所は、久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加盟しておりグループホーム部会にて行われる勉強会への職員の参加を勧めている。また1年に1度、協議会主催の交流フォーリング大会も行われ、介護・福祉に携わる同業者と交流を持つ機会をもっている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が運営者に対し、意見・不満を申し出やすい環境づくりに努めている。また、忘年会・懇親会を設け職員のストレスの軽減に努めている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回、全職員に自己評価を提出してもらい、グループホームで働く意義・個々の問題点と自己目標を明確にもらい、業務を行ってもらっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や体験入居の際によくお話し、また相談していただきやすい雰囲気作りに努めている。初期によくお話を聞くことで、入居後の生活がスムーズになるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談に来られた際に、困っておられること、苑に求められることをよく聞き、よく見極め、入居につながるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の際に、よくお話をお聞きし、求められているサービスがグループホームで対応できるか、他のサービスを利用されるべきか、よく見極め、ご本人・ご家族とお話している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学から体験昼食(2・3回)、体験入居(2泊3日)と無料で行っており、他入居者との関わり、苑の雰囲気を感じていただき、ご理解・ご納得していただいた後でスムーズに苑に馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活を共に過ごしながら、喜怒哀楽を共感しお互いに支えあう関係を築いている。また、利用者との話の中で職員がご利用者に教えていただけることも多々ある。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会時に担当者が現在の本人の状態などを伝え、お互い話し合いながら共に支え合っている。また、敬老会・誕生会などの行事の際には、ご家族もお声かけし、本人・ご家族・職員と共に喜び楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族に「生活暦」を書いていただき、生活暦を見てご家族との関係を理解するよう努めている。また、本人の訴えや何かあればすぐに連絡が取れるようにしており、敬老会・誕生会など行事の際はご家族にもお声かけし参加していただき、共に楽しい時間が過ごせるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはいつでも面会しやすいように声かけし、ご利用者には希望があれば連絡していただいたり、年賀状や書中見舞いを書いていただいている。		本人の希望で馴染みの場所に行きたいと言われればお連れしたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	きちんと利用者同士の関係を把握し、なるべく孤立しないように声かけや援助をしている。介護度・理解力の違いはあるがご利用者同士うまく支え合っている。また、ご利用者同士不仲になれば、職員が間に入り、仲が取り持てるよう声かけしたり食事席を変えたりしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、電話や手紙のやり取りを続けたり、いつでも遊びに来てもらえるように声かけし、断ち切らない付き合いを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族から好きなこと、物などを日頃の会話の中から聞きだせるよう努め、買い物に行ったり、好きな食事を出したりしている。また、困難な方には本人にとって良いと思う介助を行っている。		もっと利用者に自ら希望や意向が聞けるように時間を作りたい。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に「生活暦」を書いて頂いたり、本人に今までの暮らし方を聞き、なるべく変わらない暮らしができるよう支援している。また、これまでの他のサービス利用の経過も、把握するよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の援助・介助の中で一日の過ごし方、心身状態・健康状態をきちんと把握し、現状の変化に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者本人からの意見を聞き取るのは、困難な場合が多いが、朝礼やミーティングで全職員の意見やアイデアを聞く機会を持ち、面会時にご家族とお話し、介護計画の作成・見直しを行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月に1度、介護計画の見直しを行っており、入院や身体やADLに変化があれば、見直しや新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践は、毎日個別に詳細に記録を行っており、申し送りノートも使用し全職員が情報を共有し、日々の介護や計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の病状や体調に合わせ、ご家族やかかりつけ医との話し合いを重ね、入院や手術など行っている。退院後も入院前と同じように生活ができるように、入院中から面会時などに情報を収集し、受け入れ態勢を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じ、地域資源との協働が行えている。また、消防の協力のもと、火災避難訓練を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、歯科受診や散髪を利用している。また、かかりつけ医の指示にて、訪問看護の利用もある。その他にも、必要があれば地域包括支援センターのケアマネへ相談する事もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要があれば、ご利用者の権利擁護について相談し、助言をいただいております。運営推進会議には毎回出席していただき情報交換・交流を行っております。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望を大切に、納得して頂いた上で月1～2回の受診・往診をして頂き適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医師がご利用者の一人ひとりをどのような状態であるかを把握されており、認知症に関する診断や治療を受けられる体制にある。職員も分からないことがあれば、相談や質問をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員である看護師や、かかりつけ医の看護師と職員が気軽に相談できる環境にあり、日常の健康管理支援を行っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院された際には、職員が病院へ出向き状態を把握したり、ご家族と共に病院からの説明を聞き情報を得て、他のスタッフに伝えている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について指針を定め、当事業所の捉え方をご家族に説明している。状態の変化によって、かかりつけ医とご家族と職員で繰り返し話し合い最終的な決断をいただいている。その決断をスタッフ一同共有し対応している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所は、開設以来「お看取りまでさせていただく」との方針で対応している。今後の変化に備えて検討や準備を行い、終末期に入られた際には、かかりつけ医の依頼により訪問看護を受けられる体制にある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご入居前に、ご家族と共に数回食事を取っていただいたり、2泊3日の無料体験入居を行い、入居へ対するダメージ防止に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者一人ひとり、人生の先輩であり、長年生きてこられた敬うべき方として、職員一人ひとりが心掛けている。記録等の個人情報も、事務所にきちんと保管している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者一人ひとりに合わせた声かけで話し、ご利用者によってはいくつかの選択肢により選択・決定していただいている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・心身の状況を見ながら他利用者と共に楽しく参加できるように声かけし、散歩やレクリエーション等をするように心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で決められるご利用者には、どの服を着たいか尋ね自己決定していただくよう心掛けている。理容・美容は、店には行ってないが、2ヶ月に一度、事業所にきていただき切っただけで済ませている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いてメニューに取り入れている。食事は、テーブルを囲んでご利用者・職員が話をしながら楽しく食べ、また出来る範囲での手伝いをして頂くことによって、ご利用者の自信にもつなげている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やタバコを飲まれる方はおられない。気候のよいときは、ご利用者と職員と一緒にスーパーへ行き、食べたいおやつを買ってきていただき、食べていただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を減らすために、時間を設定しトイレへの声かけ誘導を行っている。また、ご利用者の行動を見ながらトイレへの誘導を行い、おむつの使用をなるべく抑えるよう努めている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の体調や都合に合わせて、おおむね2日おきに入浴していただいている。その日その日の入浴者は決まってはいるが、外出され汗をかかれ帰苑された時、便失禁をされた時など臨機応変に入浴していただいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の希望で居室で自由に休んでいただき、特段就寝時間も決めていない。無理に休んでもらわず、眠くなったら休んでいただくようにしている。眠れないご利用者には、ゆっくりお茶を飲みながら、職員が話し相手になり過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員一人ひとりがご利用者の生活歴を把握し、話をする中で何かしたいこと、好きなことなどを聞き出し、希望に添えるように出来る限り支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方のお金は事務所に保管している。実際にお金を持っている方には、買い物など自由に使えるようにしており、職員と共にコンビニエンスストアに出向き、雑誌やお菓子を買ってこられる方もおられる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がよく、雨が降らない限り、体調を考慮した上で、ご利用者全員に声かけし、1日に1度は外に出していただき職員と共に散歩をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事として、地域の夏祭り、花見(桜・コスモスなど)にご利用者全員とご家族もお誘いして外出している。また、ご家族と出かけられる際には、当日の本人の体調を説明し必要であれば、車椅子を貸し出すなど支援している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、職員が電話をし、取り次いでいる。年賀状や暑中見舞いは、ご利用者の1番大切な方へ書いていただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるように声かけし、訪問の際には、ご利用者との時間を共に楽しく過ごしていただけるように、お茶やお菓子をお出ししている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の時間帯、玄関は開錠している。1階ユニットの出入り口は開錠し、センサーを付けており、センサーが鳴ったらすぐに職員が確認している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の方々の所在を1日を通して把握し、事故などがないう、スタッフ同士が連絡をとりながら安全に配慮している。また、夜間は2時間おきの見回りを実施、ご利用者のその日の状態によっては30分おきの見回りを行い、状態を確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の希望に応じて職員が用意し、職員の傍らで必ず作業をしていただき、終わり次第預かっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング時に「勉強会」を行い、転倒・窒息・誤薬について、知識の共有に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル本、ノートを活用し知識の向上には努めているが、止血法・心肺蘇生等、職員全員がおこなえる状況にはない。		当事業所が加盟する久留米市介護福祉サービス事業者協議会グループホーム部会において、消防署協力の下、普通救命講習を順次受けていく予定である。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度は消防署立会いのもと、ご利用者も参加し避難誘導訓練(総合訓練)を行い、また、ミーティングの勉強会の時間を利用し、消火器の扱い方、消防への連絡の仕方など(机上訓練)を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者によっては、居室内での転倒を防ぐため、ご家族の了解を得た上で、センサーを取り付けている。ご家族には、ご入居時に転倒や誤嚥などについて説明し、入居後もご家族に現在の状態を説明しご理解いただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と夕方にバイタル測定を行い、変化・異常があれば、再検・ホーム長へ連絡、ホーム長よりかかりつけ医へ連絡し本人に合った対応を行っている。また、申し送りノートへ記入し職員が情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが、ご利用者一人ひとりの薬を把握し、ミーティング・勉強会にて効果・目的・副作用について確認しあっている。また、かかりつけ医の診断により薬が変わった際には、症状・行動の変化に注意を払い、変化があった際にはかかりつけ医へ報告を行い対応している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防として散歩や体操を促し、食事以外にも午前・午後のおやつ時に水分補給を行っている。介護記録・バイタル表に便の回数・状況を記入し一目で分かるようにしている。ご利用者によっては、かかりつけ医へ連絡し、看護師の摘便にて排便コントロールを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後洗面台に誘導し、口腔ケアを行っている。また、洗面台に誘導できない方はテーブル上にて、うがいを行っている。義歯は、その度洗浄し、うがい・歯磨きをしていただき義歯を戻している。また、定期的に歯ブラシを交換したり、口腔ケア用のコップを消毒し、清潔を保っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の体重・体調に合わせ、食事量を調節している。また、ご利用者の飲み込み状態に合わせ、刻み食・ミキサー食にし、ご本人が食べやすい食事を提供している。水分量は摂取が少ない方に対し、水分量を計っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてミーティング時に勉強会を行い、全職員が正しい知識を身に付けるよう努めている。各ユニット入り口には、消毒液を備え付けており、ご利用者や職員は勿論のこと、ご家族・来苑者にもご理解いただき、手洗いと消毒の施行に努めている。現在、久留米市内で新型インフルエンザの罹患者が確認されたため、ご家族に対し、ご面会を控えていただくようお願いしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具はハイター漂白や高熱乾燥を行い、食材に関しても賞味期限等気がけるようにしている。また、必ず食事で作ったものは使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花や花壇を置き、採光も十分に行うことで明るい雰囲気になるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングより庭が見渡せ、季節の草花がご利用者の目を楽しませてくれている。また、リビングが南側に位置しているため、冬場の採光も十分である。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士、共に行動して頂くことによって互いの存在を重要視され、安らぎのある生活をしていただいている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居までの生活に合わせてベットか畳のどちらで休まれていたかをご家族にお聞きし、その方に合わせて対応している。自宅で使われていた馴染みのある家具を持ってきていただくよう、ご家族にお話している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い朝は、窓を開け空気を入れ替えており、各居室には冷暖房を常備して温度調節を行っている。また、夏場は窓の外にゴーヤやキュウリ・かぼちゃ等、野菜を育て緑で陽射しを和らげている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、浴室と手すりを設置しており、居室内は整理整頓を心がけ、家具の安全な配慮に努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に、ご利用者の写真を貼り、リビングのテーブルには名前を貼っている。トイレにも大きな表示をし、混乱を防いでいる。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周に、花壇や菜園を設け、ご利用者と共に収穫した野菜を食卓で食すことで、ご利用者の思い出を共有している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 番 号 欄 に 印 を つ け る こ と)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない